

修士論文（要旨）

2014年1月

受動文の日中対照

——文法論と翻訳論の立場から——

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

212J3006

金 妍

目 次

第1章	はじめに	1
1.1	研究の概要	1
1.2	日中受動文の構造比較	1
1.3	日本語の受動文の分類	4
1.4	中国語の受動文と使役文	6
第2章	中国語訳に見る日本語の受動文	7
2.1	日本語の文学作品に見られる受動文の使用傾向	7
2.2	〈被〉構文で翻訳される場合	7
2.3	能動文で翻訳される場合	9
2.3.1	「存在文」で翻訳される場合	9
2.3.2	日本語の特定用法の場合	11
2.3.3	日本語の「関係者受動文」の場合	13
2.4	〈被〉以外の受動マーカ―、慣用表現で翻訳される場合	14
2.4.1	〈受、遭、得、遇、挨〉で翻訳される場合	14
2.4.2	〈由〉で翻訳される場合	16
2.4.3	「慣用表現」として翻訳される場合	17
第3章	中国語の受動文と使役文および処置文との関係	21
3.1	中国語の使役文で翻訳される場合	21
3.2	中国語の処置文で翻訳される場合	26
第4章	日本語の原文から見た中国語の受動文	28
4.1	中国語訳に見られる受動文の使用傾向	28
4.2	日本語の使役受動文に対応する場合	28
4.3	日本語の自動詞文に対応する場合	31
4.4	日本語の「慣用表現」などに対応する場合	32
第5章	日中受動文の一般的な翻訳方法	36
5.1	日本語受動文の中国語への翻訳傾向	36
5.2	中国語受動文の日本語への翻訳傾向	38
5.3	まとめと今後の課題	39
	参考資料	I

要 旨

キーワード：受動文 翻訳 対照研究 日本語 中国語

日本語の受動文は助動詞「れる、られる」が動詞に後続することで、動詞の文型情報が転換によって形成され、動作をする主体は「に」や「によって」などで表わされる。「受動文」は「受動表現」や「受け身」などとも呼ばれるが、本稿では「受動文」と呼ぶことにする。一方、中国語では助動詞が付け加わることによるのではなく、語順によって動詞の文型情報を転換する。中国語の受動文は通常、動詞の前に〈被(bei)、让(rang)、给(gei)、叫(jiao)〉などの前置詞（受動マーカー）を付けるかどうかによって、大きく「〈被〉構文」と「意味上の受動文」に分けられる。

日本語では受動文はよく使われるといわれる。これに対して、中国語は能動文を好み、受動文はそれほど使われない。日中受動文の問題は昔から注目され、中国語においても日本語においても、多くの研究者が意味や構造について様々な分析を行ってきた。ここでは、試みとして対照研究の成果を翻訳論に結び付ける。

そのため、本稿では小説に現れる日中受動文に焦点をあて考察を加える。中国人の日本語学習者あるいは翻訳上の指針になることを目指し、日本語の受動文の使用実態を明らかにし、また日本語の受動文をどのように中国語に訳すべきかについて考えを述べる。

本稿では小説をデータとし、日中受動文の使用状況を調査する。データとして松本清張の『点と線』および太宰治『人間失格』の用例を用い、その中に見られる日本語受動文とその中国語訳、またその逆に中国語訳の受動文とその日本語を比較する。このような分析を通じて、日本語の受動文がどのような構造の中国語に訳されるか、その一端を明らかにする。

本稿は4章に分かれる。

第1章では研究の概要として、最初に、どのようなデータを利用し研究を進めるかについて述べる。次に、研究方針の理解を容易にするために、先行研究の紹介をかねて日中受動文の構造を比較する。日本語の受動文については、おもに工藤真由美(1990:51)の考察を基に分類案を提示する。最後に中国語の受動文と使役文について簡単に説明する。第2章では小説の用例を利用して日本語の受動文とその中国語訳について考察する。まず、中国語訳を「〈被〉構文」、「能動文」、「その他」という三つの型に分け、データとして取りあげた作品の翻訳状況を一覧する。また、各種の型を文法論の立場からさらに詳しく分析し、翻訳の傾向を探る。第3章では、最初に中国語の使役文と処置文を紹介する。次に受動文との関係を整理し、日本語の受動文は中国語の使役文と処置文に翻訳される条件を探る。

第4章では逆の視点から、中国語訳の受動文とその日本語を対照する。中国語の受動文は日本語の受動文以外に、どのような構文に対応するかを探究する。第5章では小説の実例をデータとして、いったいどのような翻訳傾向があるかをまとめる。最後に、本稿の主張をまとめた上で、今後に残された課題について触れる。

参考文献：

- 庵 功雄 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
スリーエーネットワーク.
(2010) 『新しい日本語学入門』 スリーエーネットワーク.
- 大河内康憲(1992) 「中国語の受身」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』 明治書院.
- 木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とカタチ——「虚」の意味の形態化と構造化に
関する研究——』 白帝社.
- 工藤真由美(1990) 「現代日本語の受動文」『ことばの科学 4』 むぎ書房.
- 久野暲 (1983) 『新日本文法研究』 大修館書店.
- 杉村博文 (1991) 「遭遇と達成——中国語被受文の感情的色彩——」 大河内康憲編
(1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』 くろしお出版.
(1998) 『中国語文法教室』 大修館書店.
- 太田栄次 (2006) 「中国語の被害の意味をあらわさない“被”字句」『言語研究の射程
——湯川恭敏先生記念論集』 ひつじ書房.
- 寺村秀夫 (2005) 『日本語のシンタクスと意味 第 I 巻』 くろしお出版.
- 村上三寿 (1986) 「うけみ構造の文」『ことばの科学 1』 むぎ書房.
(1997) 「うけみ構造の文の意味的なタイプ」『ことばの科学 8』 むぎ書房.
- 森田良行 (2005) 『外国人の誤用から分かる日本語の問題』 明治書院.
- 守屋宏則 (1996) 『やさしく くわしく中国語文法の基礎』 株式会社東方書店.
- 森山卓郎 (2000) 『ここからはじまる日本語文法』 ひつじ書房.
- 山口明穂 (1987) 『国文法講座 第六巻』 明治書院.
- 潘金生 (1984) 「中日両国語の比較——次動詞「被(bei)を使う受動文と意味上の受
動文をめぐって」『金田一春彦博士古稀記念論文集』 三省堂.
- 刘月华 (2001) 《实用现代汉语语法》 商务印书馆
- 朱德熙 (2011) 《语法讲义》 商务印书馆.

例文出典：

『点と線』（2008）松本清張 新潮文庫.

『人間失格』（2008）太宰治 新潮文庫.

『点与线』（2010）林青华（译）南海出版社.

『人间失格』（2010）高詹灿、袁斌（译）云南人民出版社